

令和8年度

愛知県立岡崎東高等学校

1年次

シラバス

シラバスとは授業の内容や勉強方法を分かりやすく説明したものです。このシラバスを活用して充実した学習をしましょう。

～ 目 次 ～

P 1	・ ・ ・ ・ ・	現 代 の 国 語	
P 2	・ ・ ・ ・ ・	言 語 文 化	
P 3	・ ・ ・ ・ ・	歴 史 総 合	
P 4	・ ・ ・ ・ ・	数 学	I
P 5	・ ・ ・ ・ ・	数 学	A
P 6	・ ・ ・ ・ ・	物 理 基 礎	
P 7	・ ・ ・ ・ ・	生 物 基 礎	
P 8	・ ・ ・ ・ ・	体 育	
P 9	・ ・ ・ ・ ・	保 健	
P 1 0	・ ・ ・ ・ ・	音 楽	I
P 1 1	・ ・ ・ ・ ・	美 術	I
P 1 2	・ ・ ・ ・ ・	書 道	I
P 1 3	・ ・ ・ ・ ・	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	I
P 1 4	・ ・ ・ ・ ・	論 理 ・ 表 現	I
P 1 7	・ ・ ・ ・ ・	家 庭 基 礎	
P 1 8	・ ・ ・ ・ ・	情 報	I
P 1 9	・ ・ ・ ・ ・	産 業 社 会 と 人 間	

科目 現代の国語 (2単位)

対 象 全員

教科書 精選現代の国語 (東京書籍)

副教材 入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500 (いわずな書店)、
現代の国語ベストクリア 1 (尚文出版)、カラー版新国語便覧 (第一学習社)

学習到達目標

- ア 現代の様々な文章を読み、筆者の考えや主張、思いや心情を理解することによって、自らのものの見方、感じ方、考え方を深めるようにします。
- イ 豊かな表現に触れ、言葉が持つ世界の広がりや論理の展開を知り、読解の方法を身に付けるとともに、自らの言語能力を高めるようにします。
- ウ 自らの言語感覚を豊かにし、的確に表現する能力を高めるようにします。

年間授業計画 (以下に挙げた作品のいくつかを適宜選択して授業を行います。)

1 学期

評論：「まだ知らない自分に出会う」「僕たちの『センス・オブ・ワンダー』」「遊びが生じる場所」「小説との対話、対話としての小説」「水の東西」

言語活動：評論の読み方
評論を要約しよう

2 学期

評論：「言葉は『ものの名前』ではない」「まちの豊かさとは何か」「時間と自由の関係について」「真の自立とは」「自立と市場」「共鳴し引き出される力」

言語活動：異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く

3 学期

評論：「『無駄』と進化」「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」「白」

言語活動：論証してレポートを書く

評価方法

定期考査、課題テスト、課題、小テスト、授業態度などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 予習してから授業に臨もう …… 授業を受ける前に本文を読んでおき、意味の分からない語句は調べておきましょう。また、理解するのが難しい文章を明確にしておき、授業中に理解できるようにしましょう。

イ 自分なりにノートをまとめよう …… 黒板の丸写しでは理解したことにはなりません。授業中に教員が説明した事柄を含め、自分なりにノートをまとめていくことが必要です。

ウ 読書をしよう …… 書物中の体験や考えを通して、自分の世界を広げ、豊かにしていきましょう。

エ 豊かな言語感覚を身に付けよう …… 自分が考えたことを言葉で表現することは大切なことです。読み書きだけではなく、積極的に聞いたり話したりする授業も行います。豊かな言語感覚を身に付けましょう。

※進度の都合上、授業の展開順が変更される場合があります。

科目 言語文化 (2単位)

対 象 全員 (少人数授業を行います。)

教科書 精選言語文化 (東京書籍)

副教材 読解をたいせつにする体系古典文法・古典文法学習ノート (数研出版)、
新コンセプト言語文化古文・漢文・文学的文章 (浜島書店)、
カラー版新国語便覧 (第一学習社)、基礎から解釈へ漢文必携 (桐原書店)、
みるみる覚える古文単語330+敬語30 (いいずな書店)

学習到達目標

ア 近代以降の小説や古文や漢文に触れ、作品に現れたものの見方、考え方、感じ方を理解することによって、自らの考え方や感受性を豊かにします。

イ 近代以降の小説や古典の優れた表現を読み、作品を読解する上での基本的な文法を習得することによって、文章や内容を的確に把握する力を身に付けることができるようにします。

年間授業計画 (以下に挙げた作品のいくつかを適宜選択して授業を行います。)

1 学期

古文：「宇治拾遺物語」「今昔物語集」

2 学期

古文：「伊勢物語」「徒然草」

漢文：「十八史略」

3 学期

小説：「羅生門」

古文：「徒然草」「土佐日記」

漢文：「論語・孟子」

評価方法

定期考査、課題テスト、課題、小テスト、授業態度などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 予習してから授業に臨もう……古文、漢文は原文を音読してからノートに書き写し、単語の意味を調べ、口語訳しておきましょう。その時に理解の及ばない文章やうまく口語訳できなかった箇所は、授業中に特に注意して解説を聞き、理解するようにしましょう。

イ ノートをしっかりとろう……授業中に板書された事項を記録するだけでなく、教員が口頭で説明した事柄までまとめるようにしましょう。

ウ 音読しよう……古文や漢文には現代語と違う独特の発音、リズムがあります。授業中の音読の学習の際にはぜひ積極的に取り組みましょう。

エ 登場人物の心情を読み取ろう……人の行動には、心情という理由があります。登場人物の心情を本文から読み取る力を身につけましょう。

オ 言葉で表現してみよう……自分が考えたことを言葉で表現することは大切なことです。授業では積極的に聞いたり話したりする学習を取り入れる予定です。

※進度の都合上、授業の展開順が変更される場合があります。

科目 歴史総合 (2単位)

対 象 全員

教科書 現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社)

副教材 問いからはじまる歴史総合 (東京法令出版)

学習到達目標

人類の進歩について、近代・現代の歴史に焦点をあてることで世界のなかの日本の発展と関連づけて知識を習得する。

年間授業計画

1 学期・・・第Ⅰ部 近代化と私たち

第1章 結びつく世界と日本の開国、第2章 国民国家と明治維新

2 学期・・・第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

第3章 総力戦と社会運動、第4章 経済危機と第二次世界大戦

3 学期・・・第Ⅲ部 グローバル化と私たち

第5章 冷戦と世界経済、第6章 世界秩序の変容と日本

評価方法

定期考査、課題テスト、授業中の小テストや授業で課された課題の提出状況、授業への取組の状況や態度などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 授業内容を聞き、その場で授業内容をまとめることが最も効率の良い勉強の第一歩です。

イ 授業以外の場面での学習では、まず問題にチャレンジしてください。正解数の多い、少ないはその時点で重要ではありません。その後、特に不正解の問題を中心に何度も復習してください。

ウ 自分で学習して、どうしても分からない内容がある場合は教員または友人に質問してください。分からない内容を放置することは自らに不利益をもたらします。

エ 2年次に向けて科目選択で日本史探究や世界史探究に関連する科目であるため、出来事や人物の名前を単純に暗記するだけでは足りません。そして日本史と世界史を分離させて考えてはいけません。日本で起きた出来事が世界の出来事にどのような影響を与えたか、または世界の出来事が日本で起きた出来事にどのような影響を与えたかなどを常に意識して授業や学習に取り組んでください。

オ 歴史の中の出来事の中には地理的分野が関わってきます。その第一歩として日本地図の都道府県名や旧国名、世界地図の国名など地理的な内容を意識して授業や学習に取り組んでください。

科目 数学 I (3 単位)

対 象 全員

教科書 改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)

副教材 改訂版 4 プロセスシリーズ数学 I + A (数研出版)

チャート式 新課程 解法と演習 数学 I + A (数研出版)

練習ドリル 数学 I 標準編 (数研出版)

学習到達目標

ア 中学校で学習した数学の知識を発展させ、物事を筋道立てて順序良く考え、要領よく説明する力を身に付ける。

イ 基本公式や法則を理解し、問題演習を通してそれらを適切に使うことができるようにする。

年間授業計画

1 学期

式の計算：多項式の加法と減法、多項式の乗法、因数分解

実数：実数、根号を含む式の計算

1 次方程式：不等式の性質、1 次不等式、絶対値を含む方程式・不等式

集合と命題：集合、命題と条件、命題と証明

2 学期

2 次関数とグラフ：関数とグラフ、2 次関数のグラフ

2 次関数の値の変化：2 次関数の最大・最小、2 次関数の決定

2 次方程式と 2 次不等式：2 次方程式、2 次関数のグラフと x 軸の位置関係、2 次不等式

三角比：三角比、三角比の相互関係、三角比の拡張

発展的学習

3 学期

三角形への応用：正弦定理、余弦定理、正弦定理と余弦定理の応用、三角形の面積

データの分析：データの整理、データの代表値、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、2 つの変量の間関係、仮説検定の考え方

発展的学習

評価方法

定期考査、定期考査課題、休業中課題の提出状況と内容、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

数学 A を参照してください。

科目 数学A (2単位)

対 象 全員 (少人数授業を行います。)

教科書 改訂版 高等学校 数学A (数研出版)

副教材 改訂版 4プロセスシリーズ数学 I + A (数研出版)

チャート式 新課程 解法と演習 数学 I + A (数研出版)

練習ドリル 数学A 標準編 (数研出版)

学習到達目標

ア 中学校で学習した数学の知識を発展させ、物事を道筋立てて順序よく考え、要領よく説明する力を身に付ける。

イ 基本公式や法則を理解し、問題演習を通してそれらを適切に使うことができるようにする。

年間授業計画

1 学期

場合の数と確率：集合の要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ、事象と確率、確率の基本性質

2 学期

場合の数と確率：独立な試行と確率、条件付き確率、期待値

図形の性質：三角形の辺の比、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と直線

3 学期

図形の性質：2つの円、作図、直線と平面、空間図形と多面体

数学と人間の活動：約数と倍数、素数と素因数分解、最大公約数・最小公倍数、整数の割り算、ユークリッドの互除法、1次不定方程式、記数法、座標の考え方

評価方法

定期考査、定期考査課題、休業中課題の提出状況と内容、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 学力をつけるために一番大切なのは授業です。 授業では、教科書の例題等の講義と問題演習が中心になります。また、暗記だけでなく理解することに重点を置くことが大切です。

イ 問題を解く時、手を動かすことが大切です。1年生の内容は、2, 3年生で必須の内容ばかりです。みなさんが九九を素早くできるのと同様に、学習内容が瞬時にできるようになるまで時間をかけて訓練してください。どうしてその解法に至るのかのポイントをよく考えて取り組み分かるまで何度も解き直す努力をしてください。

ウ 学習した内容を定着させるためには、問題演習に積極的に取り組むことが必要です。復習に重点を置いて、学習した当日に関連問題を解く習慣をつけることが大切です。宿題として提示されていなくても自主的に学習に取り組む姿勢を身につけてください。

エ 数学は積み重ねの学問です。問題がわからなかった場合は、関連する分野を最初から復習しましょう。また、教員や友人に積極的に質問して問題を解決していきましょう。

科目 物理基礎 (2単位)

対 象 全員

教科書 物理基礎 新訂版 (実教出版)

副教材 リピート&チャージ物理基礎ドリル 運動と力 新課程版、
リピート&チャージ物理基礎ドリル 仕事とエネルギー/熱 新課程版、
リピート&チャージ物理基礎ドリル 波/電気 新課程版

学習到達目標

ア 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。

イ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

ウ 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

年間授業計画

1学期 直線運動の世界

力と運動の法則

2学期 力学的エネルギー

熱

波

3学期 電気

エネルギーとその利用

評価方法

定期考査、定期考査課題・休業中課題の提出状況と内容、授業中の課題の提出状況、授業ノートの作成と提出、実験観察を含む授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 物理および物理基礎という科目の性質

- ・考え方の習得が主の科目であり、暗記科目ではありません。
- ・解くべき問題としては、数学の文章題のようなものばかりになります。
- ・読解力(国語の力)と計算力(数学の力)を組み合わせ、内容への理解を深めます。

イ 授業に臨む姿勢

- ・公式は使いながら覚えてください。場面に応じた式が浮かぶようになります。
- ・わかるまで基礎を繰り返してください。お箸を使えるようになるまでの過程のように。
- ・自分で考えて納得しないと、わかるようになりません。授業の受けっ放しは厳禁です。

ウ “わかる”ということ

- ・学んだことを“再現できる能力を身に付ける”ことが、真に“わかる”ということです。
- ・他人と議論したり問題を解いたりして、内容への理解を深めてください。

エ 進路および科目選択

- ・大学における工学部の学科の大半(全てではないです)は、受験に物理を必要とします。
- ・1年生の9月に系列および科目選択があり、物理を選択する人は理系の系列になります。
- ・2年生で物理を選択すると3年生でも必須になります。自分の適性を見極めてください。

科目 生物基礎 (2単位)

対 象 全員

教科書 i版 生物基礎 (啓林館)

副教材 リードLight 生物基礎 (数研出版)

学習到達目標

- ア 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解します。
- イ 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身に付けます。

年間授業計画

1 学期

生物の共通性と多様性
代謝とエネルギー
酵素
呼吸と光合成
DNA研究の歴史とDNAの構造

2 学期

体細胞分裂とDNA量の変化
遺伝情報とタンパク質の合成
生物の体内環境とその維持
免疫

3 学期

植生と遷移
気候とバイオーム
生態系と物質循環

評価方法

定期考査、定期考査課題・休業中課題の提出状況と内容、授業中の課題の提出状況、授業ノートの作成と提出、実験観察を含む授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 授業に真剣に取り組もう

一番大切なのは授業です。先生の話をよく聞き、理解して、自分なりにノートをまとめましょう。黒板に書かれたこと以外も記録しておく、復習に役立ちます。疑問が生じたときは、授業中・授業後・放課後などを利用して、積極的に質問し、あとに残さないようにしましょう。

イ 復習をしよう

授業で習ったことを復習して、理解を深めましょう。時間がないときは授業の前の休み時間に、前回のノートを見直すだけでも復習になります。宿題が出たときは、その日のうちにやっておくと、より効果的です。

ウ 問題をたくさん解こう

自ら解いて理解を深め、知識を身に付けていくことが重要です。一度解いて満足するのではなく、間違えた箇所を中心に、繰り返し問題と向き合い、弱点を強化していきましょう。

科目 体 育 (2単位)

対 象 全 員

教科書 新高等保健体育 (大修館)

副教材 ステップアップ高校スポーツ (大修館)、個人学習ノート (初回授業で配布)

学習到達目標

- ア 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- イ 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- ウ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

年間授業計画

* I～Ⅲで1種目ずつ選択します。**男女共修**で行います。

人数や活動場所などの都合により、希望する種目を必ず選択できるとは限りません。

1 学期

オリエンテーション、集団行動、体づくり運動、体育理論

選択種目 I : サッカー・バレーボール・バドミントン・テニス・柔道

↑上記から4種目開講されます。

必須種目 : 水泳 (選択種目 I 期後、7月実施)

2 学期

体づくり運動、体育理論

選択種目 II : バスケットボール・ハンドボール・ソフトボール・卓球・バレー

↑上記から4種目開講されます。

3 学期

体づくり運動、体育理論

選択種目 III : サッカー・バドミントン・テニス・バスケットボール・ダンス・卓球

↑上記から4種目開講されます。

必須種目 : 陸上 (長距離)

評価方法

授業内での技能観察、技能テスト、試合 (発表) 結果、授業準備や集合状況、活動状況、個人学習ノートの記入状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 授業で使う道具のうち、テニスラケット、卓球ラケット、グローブは、学校から貸し出し可能です。もちろん、自分のものを使用してもかまいません。ただし、バドミントンラケットは、できるだけ各自で用意してください。
- イ 体を動かすことが学習活動の中心となるので、体調管理には十分注意しましょう。
- ウ 病気やケガで見学するときは、授業前に担当教員に連絡をして、体育服に着替えたいうえで個人学習ノート、筆記具を持参しましょう。
- エ 体育服に名前の刺繍はありません。内側に付いているネームタグに必ず記名しましょう。

科目 保 健 (1単位)

対 象 全 員

教科書 新高等保健体育 (大修館)

副教材 図説新高等保健 (大修館)

学習到達目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

年間授業計画

1 学期

オリエンテーション、日本における健康課題の変遷、健康の考え方と成り立ち、ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり、健康に関する意思決定・行動選択、現代における感染症の問題、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防

2 学期

生活習慣病の予防と回復、身体活動・運動と健康、食事と健康、休養・睡眠と健康、がんの予防と回復、喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康、精神疾患の特徴、精神疾患への予防

3 学期

事故の現状と発生要因、交通事故防止の取り組み、安全な社会の形成、応急手当の意義と救急医療体制、心肺蘇生法、日常的な応急手当

評価方法

1・2 学期末考査と学年末考査の 3 回、ノート類やワークシート、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 教科書は 2 ページ (見開き) で 1 項目となっており、基本的に 1 時間の授業で 1 項目を学習していきます。

イ 図説は教科書に対応したものを利用します。そのメモ欄やノート部分を、板書を書き写す際に使ってください。

なお、ノート類やワークシートを提出する機会があり、評価の対象となります。丁寧に記入しましょう。

ウ 教科書と図説は、体育における体育理論 (1～3 年次) や、2 年次の保健でも使用しますので、必ず記名をして、紛失に注意しましょう。

科目 音楽 I (2単位)

対 象 選択者

教科書 MOUSA 1 (教育芸術社)

副教材 高校生のための音楽研究ノート (教育芸術社)

学習到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

ア 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する(知識)とともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能(技能)を身に付けるようにする。

イ 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫すること(表現)や、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと(鑑賞)ができるようにする。

ウ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

年間授業計画

1 学期

歌唱及び楽典

歌唱テスト

筆記テスト

2 学期

器楽

歌唱及び楽典

アンサンブルの練習と発表

音楽史と鑑賞

3 学期

創作

実技テスト

評価方法

授業中の実技やノート等提出物、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

ア 自分の出す声、音に注意していくことが、音楽の力を伸ばすことにつながります。この力を伸ばすことで、より音楽を楽しめるようになります。わからないリズム、音楽用語等、積極的に質問しましょう。

イ 教室移動で教科書等を紛失しないよう、教科書、ノートには必ず名前を書いておいてください。

科目 美術 I (2単位)

対 象 選択者

教科書 高校美術(日本文教出版)

学習到達目標

- ア 描画の基礎となるデッサン・水彩の技法を習得することによって、描写力を身に付けます。
- イ 絵を描いたり、作品を作ったりすることにより、美術に対する造詣を深め、感性と表現力を豊かにします。

年間授業計画

1 学期

鉛筆デッサン：グラデーション、
静物
石こう像
「人物」

2 学期

色鉛筆画：色見本作り、
静物
「空想画」

3 学期

勾玉作り
鑑賞

評価方法

毎授業終了後、作品を採点します。学期末には試験に相当する作品を制作します。
作品制作に取り組む意欲、授業態度などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 苦手意識を持たないようにしよう・・・前半は、目の前にある物をそのまま描くことが中心です。素直な気持ちでよく見れば、描けるようになります。
- イ 積極的に質問しよう・・・同じ物を描いていても一人一人違った作品ができます。授業中は積極的に質問し、自分の作品に合った助言を受けましょう。

科目 書道 I (2単位)

対 象 選択者

教科書 書道 I (東京書籍)

学習到達目標

- ア 漢字仮名交じりの文章や詩歌や歌詞などを素材として、どのように表現するか、その工夫のしかたを学び、自由に楽しく豊かに表現できるようにします。
- イ 漢字の書では、日本と中国の過去の優れた筆跡(古典)を手本として書くこと(臨書)で、表現技法を磨き、書に対する見方や考え方を高めるようにします。
- ウ 小筆作品では集中力を高めるようにします。
- エ 硬筆(ペン字)では、字の整え方、きれいに書くコツを学び、丁寧に書こうとする気持ちを養うようにします。

年間授業計画

1 学期

漢字の書 (古典・楷書)

半切作品

ペン字

2 学期

漢字の書 (古典・行書)

色紙作品

篆刻 (自分の名前の印を彫る)

年賀状

3 学期

仮名の書

現代の、好きな歌詞や詩歌等を書にする

ペン字

評価方法

提出作品、作品制作反省カード、意欲、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 学習や運動など、全てに役立つ集中力を鍛える授業として取り組みましょう。
- イ 字を丁寧にきれいに書こうとする気持ちで臨みましょう。
- ウ 創作では、自由に豊かに楽しく表現しようとする気持ちで取り組みましょう。
- エ 毎時間、1つの作品を仕上げ(小筆作品等は数時間)作品制作カードに記入することが基本です。作品や反省カードなどの提出物をしっかり提出しましょう。

科目 英語コミュニケーション I (3単位)

対 象 全員

教科書 BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

副教材 BIG DIPPER English Communication I ベーシックノート、ワークブック (数研出版)、
英単語ターゲット 1400 (旺文社)、Hyper Listening Elementary (桐原書店)
Active Reader Basic (いいずな書店)

学習到達目標

英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養います。

年間授業計画

- 1 学期 健康・学校生活、社会・日本文化、心理・社会
- 2 学期 スポーツ・歴史、科学技術・芸術、異文化理解・心理
- 3 学期 環境・経済、人物・文化、環境・生活

評価方法

定期考査、課題テスト、考査提出課題・長期休業中課題・実力テスト課題の提出状況や内容、授業の提出物の提出状況、小テスト、授業ノートの作成と提出、プレゼンテーション、スピーチ、スピーキングテスト、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア CDなどで読まれる英文や、先生やクラスメートが話す英語を集中して聞き取りましょう。
- イ 文章は黙読ではなく、声に出して何度も繰り返し発声するようにしましょう。
- ウ 分からない単語などを見つけた時には、**その都度、辞書等を利用して理解する習慣を身に付けましょう。**
- エ 授業は基本的に英語で実施します。

最後に・・・

英語の学習は、正しい文法の知識や語彙力をもとに、読む・聞く・書く・話すの4技能の能力を伸ばすことを目的としています。授業では、4技能の学習をバランスよく行うので、どの学習活動にもしっかり取り組んでください。

さらに、「大学入学共通テスト」では、リーディングとリスニングがそれぞれ100点ずつ出題され、短時間で多量の英文を聞きとったり読んだりする能力が求められます。こうした読解力を伸ばすためには、思考力と判断力、そして語彙力が不可欠です。語彙力をつけるには日頃から多くの英文に触れ、さらに英単語をインプットするために練習する事が大切です。そのために毎日単語を目で見、耳で聴き、口で発音し、手で書いて覚える習慣を身に付けましょう。

もう一つ重要なことは、自分の持っている日本語力以上の英語力は身に付かないということです。英語の力を向上させたいければ、日本語力を向上させることが必要不可欠です。毎日とは言いませんが休日くらいは、じっくり新聞や活字に触れて下さい。

科目 論理・表現 I (2単位)

対 象 全員

教科書 Revised EARTHRISE English Logic and Expression I standard (数研出版)

副教材 EARTHRISE English Grammar in 22 Stages (数研出版)

Workbook for EARTHRISE English Grammar in 22 Stages (数研出版)

アースライズ 総合英語 (数研出版)

学習到達目標

英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、事実や意見等を多様な観点から考察し、理論の展開や表現方法を工夫しながら伝える能力を養います。

年間授業計画 < >は文法学習事項

1 学期

自己紹介<文の組み立て>、週末の過ごし方<時を表す表現>、旅行<完了形>、
交通<助動詞>

2 学期

課外時間<助動詞>、日本文化<受動態>、ボランティア活動<不定詞>、
学校生活<不定詞>、環境問題<動名詞>、スポーツ<分詞>、知らなかったこと<分詞>

3 学期

偉大な業績<関係代名詞>、歴史的な人物・建物<関係副詞>、世界の国々<比較>、
未来の自分<仮定法>

評価方法

定期考査、考査提出課題・長期休業中課題・実力テスト課題の提出状況や内容、授業の提出物の提出状況、小テスト、授業ノートの作成と提出、プレゼンテーション、スピーチ、英作文、授業への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 論理表現は文法事項を学習して活用し、コミュニケーションが図れるようにする科目です。
- イ コミュニケーションを通じて文法事項の定着が図れるよう、文章は声に出して読み、積極的な発話を心がけましょう。
- ウ 語彙・語法習得のため、辞書を積極的に活用できるようにしましょう。
- エ 英文や単語は眺めるだけでなく、日常的に読んだり書いたりしてしっかり定着させましょう。

科目 家庭基礎 (2単位)

対 象 全員

教科書 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(改訂版) (第一学習社)

副教材 最新 生活ハンドブック (第一学習社)

学習到達目標

- ア 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な考え方・取り組み方や基礎技術を習得します。
- イ 家庭や地域の生活課題を主体的に見だし、発表・討議・レポート作成などを通して、まわりの人たちと共に生きることの大切さを学びます。
- ウ 伝統や文化について理解し生活の中で自分を見つめ直し、「生きがい」をもって、自分らしく生きることができるようになります。

年間授業計画

1 学期

これからの生き方と家族：生涯の生活設計、家族・家庭と社会とのかかわり
次世代をはぐくむ：子どもの発達、子どもの生活、子育て支援と福祉
ともに生きる：社会保障制度と社会的連携
調理実習：みそ作り、包丁の使い方、すまし汁

2 学期

充実した生涯へ：超高齢社会を生きる
衣生活をつくる：人の一生と被服、被服材料、被服管理、これからの衣生活
経済生活をつくる：私たちの暮らしと経済、消費生活の自立に向けて
ホーム・プロジェクト
被服実習：基礎縫い、ボタン付け(テスト)
調理実習：麻婆豆腐、鬼まんじゅう、魚料理

3 学期

食生活をつくる：人の一生と食事、栄養と食品、食生活の安全のために
住生活をつくる：人の一生と住まい、住生活の計画と選択
調理実習：みそ汁、肉料理

※実習につきましては、感染症及びその流行が懸念される場合は、計画を変更することがあります。

評価方法

定期考査、実技テスト、小テスト、休業中課題、授業中の課題の提出状況、授業プリントの作成と提出、実習と講義等への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 授業では、教科書の講義と実習が中心になります。講義の授業では教科書、副教材、ファイルの準備が必要です。実習では内容にあった持ち物が必要です。忘れ物をしないようにしましょう。
- イ 課題などの提出物については、提出日を厳守することが大切です。
- ウ 実習におけるグループ学習では、まわりの人と協力しながら課題を完成させましょう。
- エ 講義、実習とも積極的な姿勢で授業を受けることが大切です。

科目 情報 I (2 単位)

対 象 全員

教科書 最新情報 I (実教出版)

副教材 最新情報 I 学習ノート (実教出版)

ケーススタディ情報モラル Advance (第一学習社)

学習到達目標

- ア 情報社会の問題解決：情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。
- イ 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度、情報社会に主体的に参画する態度を養うことが考えられる。
- ウ コンピュータとプログラミング：問題解決にコンピュータを積極的に活用しようとする態度、結果を振り返って改善しようとする態度、生活の中で使われているプログラムを見出して改善しようとするなどを通じて情報社会に主体的に参画しようとする態度を養う。
- エ 情報通信ネットワークとデータの活用：目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する態度、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度を養う。

年間授業画

1 学期

- ・情報社会と私たち
- ・メディアとデザイン

2 学期

- ・情報システムとデジタル化
- ・ネットワークとセキュリティ

3 学期

- ・アルゴリズムとプログラミング
- ・問題解決とその方法

評価方法

定期考査、実技テスト、小テスト、授業中の課題の提出状況、授業プリントの作成と提出、実習と講義等への取組の状況などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 実習においては、脱落者が出ないように、全員が目標を達成できるように授業を進めます。これは生徒の皆さんにとって易しいことではありません。例えば、説明を聞いていなかった一人の生徒がいると、他の39人を待たせることになります。生徒の皆さんはこの1人にならないよう、緊張感のある授業になることを覚悟しておいてください。
- イ 2単位ですが、2つの単元を二人の教員が別々に進めます。例えば、月曜日はS教諭が「情報社会と私たち」、木曜日はI教諭が「メディアとデザイン」を教えたりします。
- ウ 第1学年で開講することにより、岡崎東高校での学習活動において情報機器を早く適切に使いこなせるようにしたいというのがあります。また、機器の操作だけでなく、常に相手のことを思いやる心を育む情報モラル教育を進めます。なお、3学期の内容を円滑に進めるために1学期はタイピングを重視します。

科目 産業社会と人間 (2単位)

対 象 全員
教科書 自主教材
副教材 自主教材

学習到達目標

「産業社会と人間」は、職業選択や職業生活に必要な能力や態度を養い、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を育成する科目です。そのために自己の在り方生き方について考え、豊かな社会を築く意欲や態度も育成します。また、自己の進路希望にあわせて次年度以降の履修計画を作成します。

年間授業計画

1 学期

「産業社会と人間」授業オリエンテーション
進路適性検査とその分析
自己理解・職業研究・学問研究
進路講演会
キャンパスツアー・出前講座
系列・科目説明会と2、3年次履修計画作成

2 学期

職業研究・学問研究まとめ・発表
2、3年次選択科目について面接、登録
社会人講師講演会
小論文指導
ライフプラン作成

3 学期

ライフプラン発表
進路探究
総合学科授業発表会
産業社会と人間まとめ

評価方法

授業で提出するワークシートの内容や授業への取組の状況、プレゼンテーション(発表)などから観点別評価を行い、その結果を総合的に評価します。

学習上の注意点及びアドバイス

- ア 授業には積極的な姿勢で臨むことが大切です。
- イ 毎時間のワークシートが教材であり、ノートであるので、一般のノートを用意する必要はありません。
- ウ 「産業社会と人間」ファイルを学校で用意するので、授業の配布物やプリント、ワークシート全てをファイルしてください。ファイルは2年生の「総合的な探究の時間」でも継続して使用します。
- エ 調べたこと等を発表する活動やその発表を聴いて考えを深める活動が大切です。

愛知県立岡崎東高等学校

1年 組 番 氏名